

北海道浮魚ニュース

平成 24 (2012) 年度 20 号

2012 年 11 月 15 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

11 月道南太平洋スルメイカ調査結果

道南太平洋での 11 月調査のスルメイカ分布密度は過去同時期に比べ低く、海域全体の魚体サイズは昨年より小型であった。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間 : 2012 年 11 月 5 日 ~ 9 日
- ・ 調査海域 : 道南太平洋、津軽海峡

昨年 (2011 年 11 月 7 日 ~ 11 日) のデータと比較しました。

1 . 水温 (図 1、2)

2012 年の水温のうち、荒天のため観測を中止した一部の調査点の値については、10 月 30 日から 11 月 2 日にかけて金星丸で行った定期海洋観測のデータで代用しました。漁獲調査点 4 地点の水温は、表層では全ての調査点で昨年の値を 0.1 ~ 1.3 上回り、水深 50m 層では浦河沖 St.15 で昨年の 0.9 下回ったほかは昨年の 0.1 ~ 3.6 上回る値となりました。調査海域全体の水深 50m 層の水温は、恵山岬南側に局地的に水温の低い海域が見られたほかは全体的に昨年より高く、特に函館周辺の津軽海峡内では昨年の 3 超上回る値となっていました。

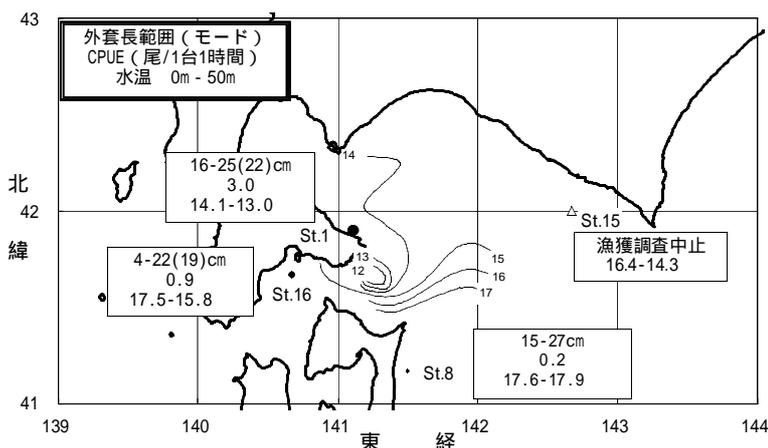


図 1 2012 年の漁獲調査結果と水温 (11 月 5 ~ 9 日)

は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布。水温データには 10 月 30 日 ~ 11 月 2 日に行った定期海洋観測調査 (金星丸) のデータを一部使用

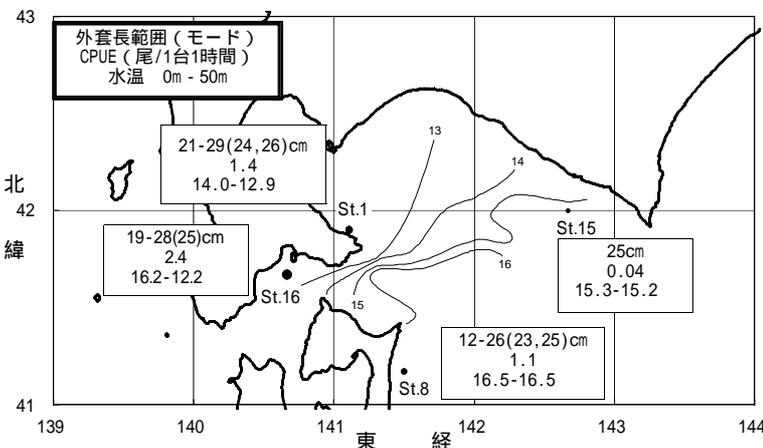


図 2 2011 年の漁獲調査結果と水温 (11 月 7 ~ 11 日)

は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。等温線は 50m 水深の水温分布。

表1 2012年及び過去6年の各調査地点のCPUEと海域全体の魚体サイズ組成。2008年以前は10月にSt.16を除く3点での調査。2008年は荒天のため漁獲調査中止。

	2006(H18) 10/26-10/27	2007(H19) 10/24-10/26	2008(H20) 10/27-10/31	2009(H21) 11/9-11/11	2010(H22) 11/11-11/12	2011(H23) 11/7-11/11	2012(H24) 11/5-11/9
St.1(木直沖)CPUE	4.0	3.8	-	1.2	15.0	1.4	3.0
St.8(下北半島東沖)CPUE	-	-	-	-	-	1.1	0.2
St.15(浦河沖)CPUE	-	0	-	8.1	-	0.04	-
St.16(函館沖)CPUE	-	-	-	-	-	2.4	0.9
平均CPUE(尾/台・時間)	4.0	1.9	-	4.6	15.0	1.2	1.4
外套長の範囲(cm)	13-23	20-27	-	16-30	17-30	12-29	4-25
外套長モードの範囲(cm)	17	23	-	24	24,26	24-26	19,22

2. 分布密度(図1、2、表1)

漁獲調査点4地点のうち調査を実施した3調査点の平均CPUEは1.4で昨年の全調査点の平均(1.2)を上回りましたが、同じ3調査点の平均(1.6)は下回りました。最もCPUEが高かったのは木直沖St.1(3.0)でした。魚群の分布密度は過去同時期の調査と比較して海域全体で低く、昨年に続き、秋以降に道東方面から来遊する南下群の到達が遅れているものと考えられます。

3. スルメイカの大きさ(図1~3、表1)

漁獲されたスルメイカの外套長は4~25cm(昨年12~29cm)の範囲にありました。各地点の外套長のモード(最も多く漁獲されたイカの大きさ)は木直沖St.1が22cm、函館沖St.16が19cmでした。下北半島東沖St.8は、採集された6個体全てが異なる体長(cm単位)でモードが見られませんでした。調査海域全体の外套長のモードは22cm(昨年25cm)で、全体的な魚体サイズは昨年より小型でした。

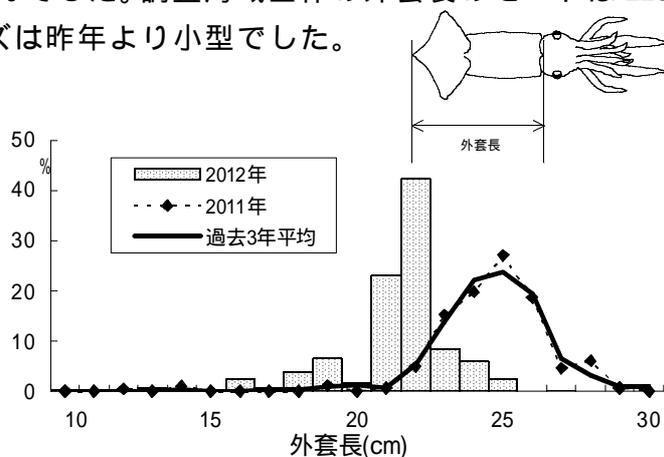


図3 調査海域全体のスルメイカ外套長組成

(文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991)